

エコアクション21

環境経営レポート

2018年4月1日～2018年6月30日



本社事務所



40周年記念樹 高野橋

2018年7月30日

FK株式会社 **JGKS**

目次

1. 会社概要及び対象範囲	1
2. 環境経営方針	2
3. 環境管理実施体制	3
4. 環境経営目標	4
5. 環境経営計画と実績	5
6. 次年度の取り組み	6
7. 環境関連法規の遵守、違反、訴訟等の有無	7
8. 代表者による全体評価と見直し	8

1. 会社概要及び対象範囲

1-1 社名 株式会社フクハラ

1-2 設立 昭和46年5月

1-3 資本金 5000万円

1-4 所在地

〒246-0025 神奈川県横浜市瀬谷区阿久和西1-15-5
本社事務所

〒454-0961 愛知県名古屋市中川区戸田明正-211
中部営業所

〒246-0025 神奈川県横浜市瀬谷区阿久和西1-15-9
本社第一工場

〒241-0031 神奈川県横浜市旭区今宿西町222-5
都岡工場

1-5 代表取締役 福原 廣

1-6 事業内容 エアコンプレッサー周辺機器・ドレン処理装置の製造販売
=製品及びサービス=

エアコンプレッサー用ドレントラップ、ドレン処理装置、
除菌フィルター、エアフィルター、芳香発生装置、膜式エアドライヤー
オイルミスト吸着装置オイルバスター、窒素ガス発生装置、
メカニカルシール用リークアラームの設計、製造及び販売

1-7 事業規模

		対象期間			
指標	単位	(2018年4月～2018年6月)	(2017年4月～2018年3月)	(2016年4月～2017年3月)	(2015年4月～2016年3月)
従業員数	人	70.00	71.00	66.00	78.00
売上高	万円	30,880.50	113,354.40	107,539.20	109,761.90
床面積	m2	2,494.00	2,494.00	2,139.00	2,139.00

1-8 環境管理責任者 環境管理室 佐伯 徳博

1-9 対象組織 株式会社フクハラ 全組織

1-10 対象活動 株式会社フクハラ 全製品及びサービス

2. 環境経営方針



環境経営方針

I. 基本理念

「ストップザ環境破壊」。我々は勇気をもって立ち上がり、「美しい地球経済成長の両立を図る」ことを基本理念とし、環境破壊と地球温暖化防止を目指して、広く社会に貢献することを誓います。

II. 基本方針

株式会社フクハラは、より良い地球環境を目指して環境関連機器、省エネ製品の開発、製造及び販売を促進しています。このことを踏まえ地球環境保全を経営の重要課題と捉え、企業活動のあらゆる面に取り入れて、環境汚染の予防に努めるとともに、コスト削減、企業規模の拡大のためのチャンスとして、社会の発展に貢献するため以下の方針を定め、環境経営システムを推進し、必要に応じて見直しを図ります。

1. 企業活動及び製品、サービスの環境に及ぼす影響が大きく、かつ技術的、経済的に可能な事項から取り組み、環境パフォーマンスを向上させるための環境経営システムの継続的改善を図ります。
2. 環境関連法令及び当社が受入れたその他の要求事項を遵守します。
3. 環境保全活動のため、特に次の事項について重点的、かつ積極的に推進します。
(1) 環境関連機器及び省エネ製品の開発、販売 (2) 二酸化炭素排出量・電気使用量・化石燃料使用量・水使用量・廃棄物等の削減への取り組み、及びグリーン購入の推進 (3) 化学物質使用量削減と適正管理
4. 社員の環境への啓蒙、及び地域・社会との協調・連携を図り環境活動を通じて社会に貢献します。
5. 環境経営方針は全社員への周知徹底を図るとともにホームページ及び環境経営レポートにて社外に公表します。

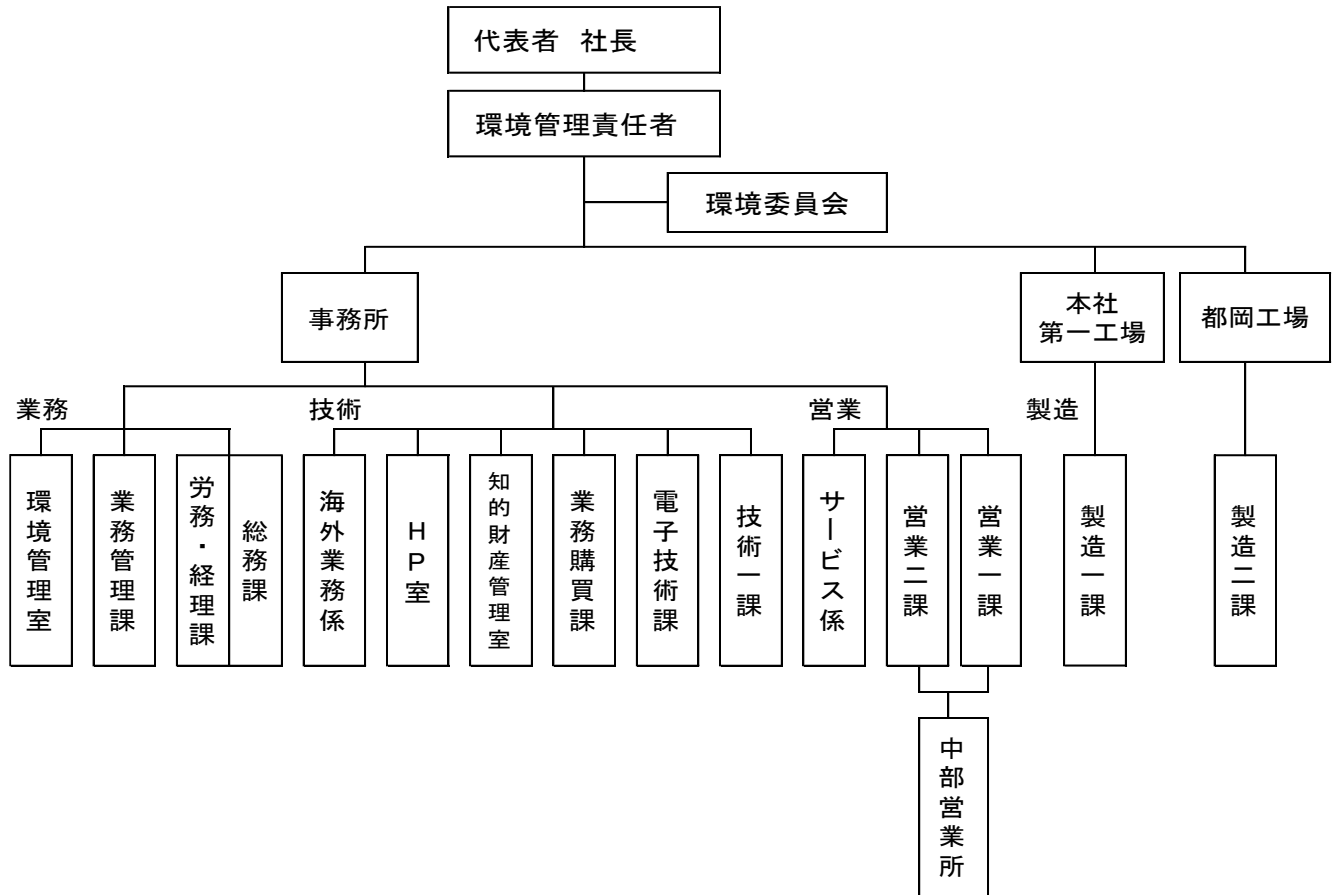
2018. 3. 23

FR 株式会社 フクハラ

代表取締役 **福原 廣**

3. 環境管理実施体制

3-1 環境推進組織図



3-2 責任と権限

	役割・責任・権限
代表者(社長)	①代表者として環境経営全般に関して責任と権限を持つ ②環境方針を制定し、従業員に周知する ③資源(人、もの、金)の用意をする ④EA21全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する ⑤環境管理責任者、環境委員等を任命する
環境管理責任者	①EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実行し環境面の実績を向上させる ②上記の結果を社長に報告する ③EA21文書類の承認をする ④環境委員会の委員長としてEMS全般の舵取りを行い、実行を推進する
環境委員会 環境委員	①EA21環境経営システムを構築し、文書化し、実行を推進する ②環境への負荷の自己チェックを実施する ③環境への取組の自己チェックを実施する ④環境管理責任者を補佐し、問題点の審議と解決策を立案する
部門長及び 全従業員	①自部門内の環境経営目標、環境経営計画の達成と実績の把握を行う ②環境経営方針、自部門の環境経営目標、環境遺影計画を部門全員に周知する ③自部門に関連する法規制等を遵守する ④社内外の環境情報の収集と伝達をする ⑤自部門内の緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する

4. 環境経営目標

環 境 経 営 目 標						
No.	環 境 目 標 テ ー マ	基準値 2017年度	年 度 環 境 目 標			担当部署
			2018年度	2019年度	2020年度	
1	(省エネ又は環境関連製品) ・開発・改良	2件	2件	2件	2件	技術部門
2	(二酸化炭素排出量削減) ・電力使用量の削減 ・ガソリン使用量の削減	電気使用量 絶対量 199,826 kWh 原単位 176.3 kWh/百万円 ガソリン使用量 絶対量 16,337 ℓ 原単位 14.41 ℓ/百万円 二酸化炭素排出量 絶対量 132,646 kg-CO2	1% 削減 電気使用量 絶対量 197,828 kWh 原単位 174.5 kWh/百万円 ガソリン使用量 絶対量 16,174 ℓ 原単位 14.27 ℓ/百万円 二酸化炭素排出量 絶対量 131,319 kg-CO2	1% 削減 電気使用量 絶対量 195,850 kWh 原単位 172.8 kWh/百万円 ガソリン使用量 絶対量 16,012 ℓ 原単位 14.13 ℓ/百万円 二酸化炭素排出量 絶対量 130,007 kg-CO2	1% 削減 電気使用量 絶対量 193,892 kWh 原単位 171.06 kWh/百万円 ガソリン使用量 絶対量 15,852 ℓ 原単位 13.99 ℓ/百万円 二酸化炭素排出量 絶対量 128,708 kg-CO2	全部署 営業部
3	(廃棄物排出量削減) ・産業廃棄物 廃フィルター排出量の削減	廃フィルター排出量 絶対量 84,800 kg-CO2 原単位 74.81 kg-CO2/百万円	絶対量:現状維持 原単位:1% 削減 廃フィルター排出量 絶対量 84,800 kg-CO2 原単位 74.06 kg-CO2/百万円	絶対量:現状維持 原単位:1% 削減 廃フィルター排出量 絶対量 84,800 kg-CO2 原単位 73.32 kg-CO2/百万円	絶対量:現状維持 原単位:1% 削減 廃フィルター排出量 絶対量 84,800 kg-CO2 原単位 72.59 kg-CO2/百万円	製造部門
4	(総排水量削減) ・節水	水使用量 絶対量 1,811 m ³	1% 削減 水使用量 絶対量 1,793 m ³	1% 削減 水使用量 絶対量 1,775 m ³	1% 削減 水使用量 絶対量 1,757 m ³	製造部門 全部署
5	(化学物質使用量削減) ・塗料、シンナー類の削減	指定100物質排出量 絶対量 2,495 kg-CO2 原単位 2.201 kg-CO2/百万円	1% 削減 指定100物質排出量 絶対量 2,470 kg-CO2 原単位 2.179 kg-CO2/百万円	1% 削減 指定100物質排出量 絶対量 2,445 kg-CO2 原単位 2.160 kg-CO2/百万円	1% 削減 指定100物質排出量 絶対量 2,421 kg-CO2 原単位 2.140 kg-CO2/百万円	製造部門
6	(リサイクル) ・槽・交換本数の拡販	槽・交換本数 9,253 本	1% 増加 槽・交換本数 9,346 本	1% 増加 槽・交換本数 9,439 本	1% 増加 槽・交換本数 9,533 本	営業部
7	(グリーン購入の推進)	実態調査、仕組作り、目標設定 を行って活動を開始する	1% 削減	1% 削減	1% 削減	業務管理

注) ①電力購入先 東京電力 二酸化炭素排出係数 0.474kg--CO2/kWh (2016年度版) ②電力購入先 中部電力 二酸化炭素排出係数 0.474kg--CO2/kWh (2016年度版)

5. 環境経営計画と実績

2018年度環境経営計画書

No	環境目標	方策	目標及び実績				責任者		
			4月	5月	6月				
1	【省エネ又は環境関連製品】 ・製品開発・改良 2件以上	クーラードレン美人水 CDB182 タイプ	計画	試作	試作	試作	技術部門 卯月		
			実績	開発中	開発中	開発中			
		評価	○	○	○				
		計画	試作	試作	評価				
		実績	開発中	組立	評価				
		評価	○	○	○				
		ミニオイルバスター 開発	計画	開発	開発	開発	技術部門 卯月		
			実績	開発中	開発中	開発中			
		評価	○	○	○				
		計画	開発	開発	開発				
		実績	開発中	開発中	開発中				
		評価	○	○	○				
2	【二酸化炭素排出量削減】 電力使用量の削減 絶対値、原単位とも 2017年実績の1%削減 原単位 実績 176.3kwh/百万円 ↓ 目標 174.5kwh/百万円 以下	・クールビズ・ウォームビズの実施 ・昼休みの消灯 ・PC電源OFF、スリープ機能の設定 ・LED化の推進 ・人感センサーの設置 ・エアコン温度の適正管理 ・熱線吸収ガラス、反射ガラスの採用 ・シーリングファンの設置 ・建物への遮熱塗料の塗装推進	絶対値	目標	当月	16,059	9,346	13,019	全部署 部門長
				kwh	累計	16,059	25,405	38,424	
				実績	当月	10,299	13,349	14,127	
				kwh	累計	10,299	23,648	37,775	
				削減率	当月	36.5%○	-41.4%×	-7.4%×	
				評価	累計	36.5%○	7.5%○	2.7%○	
	原単位	目標	当月	108.34	132.91	124.68			
		kwh/百万円	累計	108.34	120.96	122.33			
		実績	当月	61.3%○	31.3%○	40.0%○			
		評価	累計	61.3%○	44.3%○	42.7%○			
		達成率	当月	61.3%○	31.3%○	40.0%○			
		評価	累計	61.3%○	44.3%○	42.7%○			
【二酸化炭素排出量削減】 ガソリン使用量の削減 絶対値、原単位とも 2017年実績の1%削減 原単位 実績 14.410/百万円 ↓ 目標 14.270/百万円 以下	・エコドライブ 発進時、ふんわりスタート 緩やかな速度で走行 赤信号、下坂はエンジンブレーキ アイドリングストップ クーラーはほどほどに ルート選びも大切 ・不要な荷物は掲載しない ・空気圧チェックはこまめに ・ハイブリッドカーへの転換	絶対値	目標	当月	1,270	1,440	1,722	主 営業部門 高下 関連 全部署 部門長	
			0	累計	1,270	2,710	4,432		
			実績	当月	951	1,116	1,205		
			0	累計	951	2,067	3,272		
			削減率	当月	25.9%○	23.3%○	30.7%○		
			評価	累計	25.9%○	24.5%○	26.9%○		
原単位	目標	当月	10.01	11.11	10.63				
	0/百万円	累計	10.01	10.57	10.60				
	実績	当月	42.6%○	28.4%○	34.1%○				
	評価	累計	42.6%○	34.9%○	34.6%○				
	達成率	当月	42.6%○	28.4%○	34.1%○				
	評価	累計	42.6%○	34.9%○	34.6%○				
【二酸化炭素排出量削減】 電力、ガソリン使用量による 前年実績の1%削減	上記施策による	絶対値	目標	当月	10,560	18,334	28,503	製造部門 市村、桑田	
			kg	累計	10,560	16,008	25,502		
			実績	当月	7,090	7,090	7,090		
			削減率	累計	32.9%○	12.7%○	10.5%○		
			評価	累計	32.9%○	12.7%○	10.5%○		
			達成率	累計	32.9%○	12.7%○	10.5%○		
【産業廃棄物の削減】 廃フィルターの排出量 絶対値 2017年実績 現状維持 原単位 2017年実績の1%削減 実績 74.81kg/百万円 ↓ 目標 74.06kg/百万円 以下	・廃フィルターの水分を極力除去 ・廃棄物の分別の徹底	絶対値	目標	当月	5,800	5,240	11,100		製造部門 市村、桑田
			kg	累計	5,800	11,040	22,140		
			実績	当月	6,680	7,400	10,770		
			kg	累計	6,680	14,080	24,850		
			削減率	当月	-15.2%×	-41.2%×	3.0%○		
			評価	累計	-15.2%×	-27.5%×	-12.2%×		
原単位	目標	当月	70.27	73.68	95.05				
	kg/百万円	累計	70.27	72.02	80.47				
	実績	当月	5.39%○	0.52%○	-22.09%×				
	評価	累計	5.39%○	2.83%○	-7.97%×				
	達成率	当月	5.39%○	0.52%○	-22.09%×				
	評価	累計	5.39%○	2.83%○	-7.97%×				
【総排水量の削減】 絶対値 2017年実績 1%削減	・節水の徹底 ・水を出し過ぎない ・流しっぱなし、出しっぱなし厳禁 ・トイレ大小の使い分け ・節水アイテムの活用	絶対値	目標	当月	284	302	586	製造部門 市村、桑田 全部署 部門長	
			m ³	累計	284	284	586		
			実績	当月	305	305	305		
			m ³	累計	305	305	305		
			削減率	当月	-6.3%×	×	×		
			評価	累計	-6.3%×	×	×		
【化学物質使用量削減】 塗料、溶剤類の使用による百物質の 絶対値、原単位とも 2017年実績の1%削減 原単位 2017年実績 2.201kg/百万円 ↓ 目標 2.179kg/百万円 以下	・塗装ロスの低減 ・容器にフタを小まめに閉めて発散させない ・容器の密閉化 ・塗装ロスの少ないブース吸引力 ・微粒化とつきまわり性の良い高効率ガン の採用 ・洗浄溶剤の回収と洗浄方法の改善	絶対値	目標	当月	205.84	205.84	205.84		製造部門 市村
			kg	累計	205.84	411.68	617.52		
			実績	当月	148.55	215.50	166.94		
			kg	累計	148.55	364.06	531.00		
			削減率	当月	38.56%○	-4.48%×	23.30%○		
			評価	累計	38.56%○	13.08%○	16.30%○		
原単位	目標	当月	1.56	2.15	1.47				
	kg/百万円	累計	1.56	1.86	1.72				
	実績	当月	39.4%○	1.6%○	47.9%○				
	評価	累計	39.4%○	17.0%○	26.7%○				
	達成率	当月	39.4%○	1.6%○	47.9%○				
	評価	累計	39.4%○	17.0%○	26.7%○				
【槽・交換本数の拡販】 2017年実績 9,253 本 目標本数 9,346 本	・顧客台帳の登録・整備・活用促進 ・槽交換促進メール(チラシ)発行 ・見積時、初回交換槽の見積追加	絶対値	目標	当月	890	890	890	営業部門 高下	
			本	累計	890	1,780	2,670		
			実績	当月	826	803	994		
			本	累計	826	1,629	2,623		
			達成率	当月	92.8%×	90.2%×	111.7%○		
			評価	累計	92.8%×	91.5%×	98.2%×		
7	【グリーン購入の推進】 ・実態調査 ・仕組作り ・目標設定 ・啓蒙	目標	実態調査	実態調査	仕組検討	総務 高梨			
			実績	購買実績 調査分析	購買実績 調査分析		購買実績 調査分析 要領作成		
			評価	○	○		○		
			評価	○	○		○		
		評価	電力、ガソリン、化学物質は累計で削減でき ており一定の成果があった。産業廃棄物、排 水量、槽交換本数が未達だが改善傾向。 売上は前年同期比15%UPしているが更に削 減のための改善に取り組む必要がある。						
		環境管理責任者							

6. 次年度の取り組み

エコアクション21の活動を開始し、まだ3ヶ月で評価するには十分ではないが、PDCAを確実に回して継続的に改善を行っていき、今年度終了時の実績を評価して、中期目標が妥当かどうか検証して必要であれば見直しを検討する。

環境経営目標						
No.	環境目標テーマ	基準値 2017年度	年度環境目標			担当部署
			2018年度	2019年度	2020年度	
1	(省エネ又は環境関連製品) ・開発・改良	2件	2件	2件	2件	技術部門
2	(二酸化炭素排出量削減) ・電力使用量の削減 ・ガソリン使用量の削減	電気使用量 絶対量 199,826 kWh 原単位 176.3 kWh/百万円 ガソリン使用量 絶対量 16,337 ℓ 原単位 14.41 ℓ/百万円 二酸化炭素排出量 絶対量 132,646 kg-CO ₂	1%削減 電気使用量 絶対量 197,828 kWh 原単位 174.5 kWh/百万円 ガソリン使用量 絶対量 16,174 ℓ 原単位 14.27 ℓ/百万円 二酸化炭素排出量 絶対量 131,319 kg-CO ₂	1%削減 電気使用量 絶対量 195,850 kWh 原単位 172.8 kWh/百万円 ガソリン使用量 絶対量 16,012 ℓ 原単位 14.13 ℓ/百万円 二酸化炭素排出量 絶対量 130,007 kg-CO ₂	1%削減 電気使用量 絶対量 193,892 kWh 原単位 171.06 kWh/百万円 ガソリン使用量 絶対量 15,852 ℓ 原単位 13.99 ℓ/百万円 二酸化炭素排出量 絶対量 128,708 kg-CO ₂	全部署 営業部
3	(廃棄物排出量削減) ・産業廃棄物 廃フィルター排出量の削減	廃フィルター排出量 絶対量 84,800 kg-CO ₂ 原単位 74.81 kg-CO ₂ /百万円	絶対量:現状維持 原単位:1%削減 廃フィルター排出量 絶対量 84,800 kg-CO ₂ 原単位 74.06 kg-CO ₂ /百万円	絶対量:現状維持 原単位:1%削減 廃フィルター排出量 絶対量 84,800 kg-CO ₂ 原単位 73.32 kg-CO ₂ /百万円	絶対量:現状維持 原単位:1%削減 廃フィルター排出量 絶対量 84,800 kg-CO ₂ 原単位 72.59 kg-CO ₂ /百万円	製造部門
4	(総排水量削減) ・節水	水使用量 絶対量 1,811 m ³	1%削減 水使用量 絶対量 1,793 m ³	1%削減 水使用量 絶対量 1,775 m ³	1%削減 水使用量 絶対量 1,757 m ³	製造部門 全部署
5	(化学物質使用量削減) ・塗料、シンナー類の削減	指定100物質排出量 絶対量 2,495 kg-CO ₂ 原単位 2.201 kg-CO ₂ /百万円	1%削減 指定100物質排出量 絶対量 2,470 kg-CO ₂ 原単位 2.179 kg-CO ₂ /百万円	1%削減 指定100物質排出量 絶対量 2,445 kg-CO ₂ 原単位 2.160 kg-CO ₂ /百万円	1%削減 指定100物質排出量 絶対量 2,421 kg-CO ₂ 原単位 2.140 kg-CO ₂ /百万円	製造部門
6	(リサイクル) ・槽・交換本数の拡販	槽・交換本数 9,253 本	1%増加 槽・交換本数 9,346 本	1%増加 槽・交換本数 9,439 本	1%増加 槽・交換本数 9,533 本	営業部
7	(グリーン購入の推進)	実態調査、仕組作り、目標設定を行って活動を開始する	1%削減	1%削減	1%削減	業務管理

注) ①電力購入先 東京電力 二酸化炭素排出係数 0.474kg-CO₂/kWh (2016年度版) ②電力購入先 中部電力 二酸化炭素排出係数 0.474kg-CO₂/kWh (2016年度版)

7. 環境関連法規の遵守、違反、訴訟等の有無

遵守評価日 2018年5月7日 (環境法規制一覧表により3回/年、確認)

関係当局からの違反等の指摘は、過去10年間無し。

法規制等名称		条項	遵守状況
水質汚濁	下水道法	汚濁水の排出(12条の2)	○
		障害を除去するために必要な施設を設ける(12条の11)	○
	下水道法施行令	除害施設設置基準(9条)	○
		水質基準(9条の5) n-Hex 5mg/?(鉱油類)	○
	横浜市下水道条例	除害施設の設置(6条)	○
廃棄物	廃棄物処理法	産業廃棄物保管基準(12条)	○
		マニフェストを交付(12条の3)	○
		実施状況を都道府県知事に報告(12条の8)	○
	廃棄物処理法施行令	収集運搬の委託基準、委託契約書(6条の2)	○
	廃棄物処理法施行規則	保管基準、掲示板(8条)	○
		収集運搬委託基準(8条の2)	○
		処分委託基準(8条の3)	○
		委託契約書に添付すべき書面(8条の4)	○
		委託契約に含まれる事項(8条の4の2)	○
	委託契約書保存期間(8条の4の3)	○	
家電リサイクル法	消費者の責務(6条)	○	
家電リサイクル法施行令	家電リサイクル法対象機器	○	
危険物・火災	消防法	指定可燃物の貯蔵(9条の3)	○
		消防用設備の設置(17条)	○
		消防用設備の点検報告(17条3の3)	○
	消防法施行令	消火器設置基準(10条)	○
	消防法施行規則	消防用設備の点検期間(31条の6)	○
	危険物の規制に関する政令	指定数量(1条の11) 第1石油類 200ℓ 第2石油類 1,000ℓ	○
横浜市火災予防条例	少量危険物の貯蔵、取扱基準(36条、37条)	○	
	少量危険物の貯蔵の届出(76条)	○	
騒音振動	横浜市生活環境条例	騒音、振動に関する規制基準(31条)	○
	横浜市生活環境条例施行規則	38条(別表第13,14) 騒音am8~pm6 50db. 振動am8~pm7 60db.	○
化学物質	労働安全衛生法	物質の表示等(57条)	○
	労働安全衛生法施行令	名称を表示すべき有害物(18条) 四塩化炭素 硫酸	○
	消防法	危険物 別表第一(2条⑦)	○
	特定化学物質障害予防規則	測定およびその記録(36条)	○
		労働者の作業記録(38条の4)	○
P R T R 法	第一種指定化学物質の排出量等の把握及び届出(5条)	○	
大気汚染	フロン排出抑制法	フロン類回収業者への引渡し(19条)	○
		費用負担(37条)	○
		行程管理制度の遵守((19条の3)	○
		第一種特定製品の管理者が講ずべき措置(16条~26条)	○

8. 代表者による全体評価と見直し

実施日 2018年7月26日

8-1. 環境管理責任者の報告

- ① 実施期間 2018年4月1日～6月30日 (3ヶ月間)
- ② 環境経営計画に基づき予定通り実施。
- ③ 環境関連法規等の遵守状況
当該法令は遵守している
- ④ 外部からの環境に関する苦情や要望及びその対応結果
発生なし
- ⑤ 環境異常、緊急事態の発生状況及びその対応結果
発生なし
- ⑥ 環境目標の達成状況

	単位	目標	実績	コメント	評価
二酸化炭素排出量の削減	kg	28,503	25,502	目標比 10.5 %の削減	○
電力使用量の削減	kwh	38,424	37,775	目標比 1.7 %の削減	○
ガソリン使用量の削減	ℓ	4,432	3,272	目標比 26.2 %の削減	○
産業廃棄物排出量の削減	kg	22,140	24,850	目標比 -12.2 %の削減	×
水使用量の削減	m ³	586	666	目標比 -13.7 %の削減	×
化学物質使用量の削減	kg	618	531	目標比 14.0 %の削減	○
グリーン購入		実態調査 要領作成	実態調査 要領作成	要領に従い実施のこと	○

⑦ 是正・予防処置の状況

発生なし

8-2. 代表者の見直し

項目	見直し有無	評価コメント
環境経営方針	無し	社憲の理念に沿ったものである
環境経営目標	無し	問題なし
環境経営計画	無し	問題なし
EMS	無し	問題なし

8-3. 全体評価コメント

- ・取り組み期間は短かったが目標達成に向けて活動が出来た。目標ごとに達成、未達のものがあるが要因を分析して、今後も削減につながる施策、改善活動を継続的に推進していく。